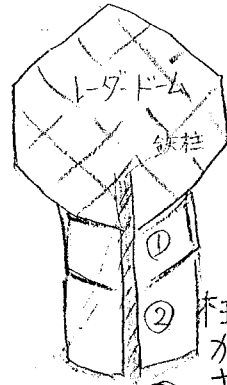


施設は、一〜四号館まで。それに仮説がある。アルミ合金でできており、風速100Mにたえらる。建設者の大成建設の伊藤しようすけさんは、このままで後五十年はこの施設がもつ。と言っている。

※一号館

レオタームがあった所

真中に、レオタームの軸になる鉄柱があり支えられている。



① 台風観測に使用した機械がドムに守られている
② 休室、石原裕次朗さんが入って映画撮影をした所
よく見ると①②の部屋はレオタームのつくりと同じ八角形の形をしているおもしろい形だ。

※二号館

職員の仕事の場

皇太子が来る時に、用意した10万円の応接セットがあり、ぼくも座して授業をうけた。今では、測候所長だった「新田次郎」の本がたくさんおいてある。

山頂では荷もこごくかたまりのため部屋で、TVゲームをしたり、カオクのできる、ごごく室がある。コフは、人良料などの「遊ばんはブルドーザー」にたのんで、山頂まで搬入450円で運んでくれる。

※三号館

個室、寝室

観測者のための、プライベートの間。

※四号館

機械室

下界から60ボルトの電気を引いている。巨大な自発電機もあり、下界からの電気が止まった時この発電機で3ヶ月間レオタームを動かす力がある。

測候所の中で、二本がみねりが走りやすいため危険!! 660ボルトの電線も、そのままおき出しにしているのが、危険な所

※仮説

測候所を建設する時の、業者が泊っていた所。

ぼくの思った事

日本一高いこの剣ヶ峰に、測候所を建設した人達、気象観測をした人達、強力の人達、苦勞と努力が、おれと伝ゆえる建物だった。下界に下りれば、おれは、建物かたくなもある。でも、おれの一着は、測候所しかない。取強だ。いつまでも、おれ達を見守っていてほしい。